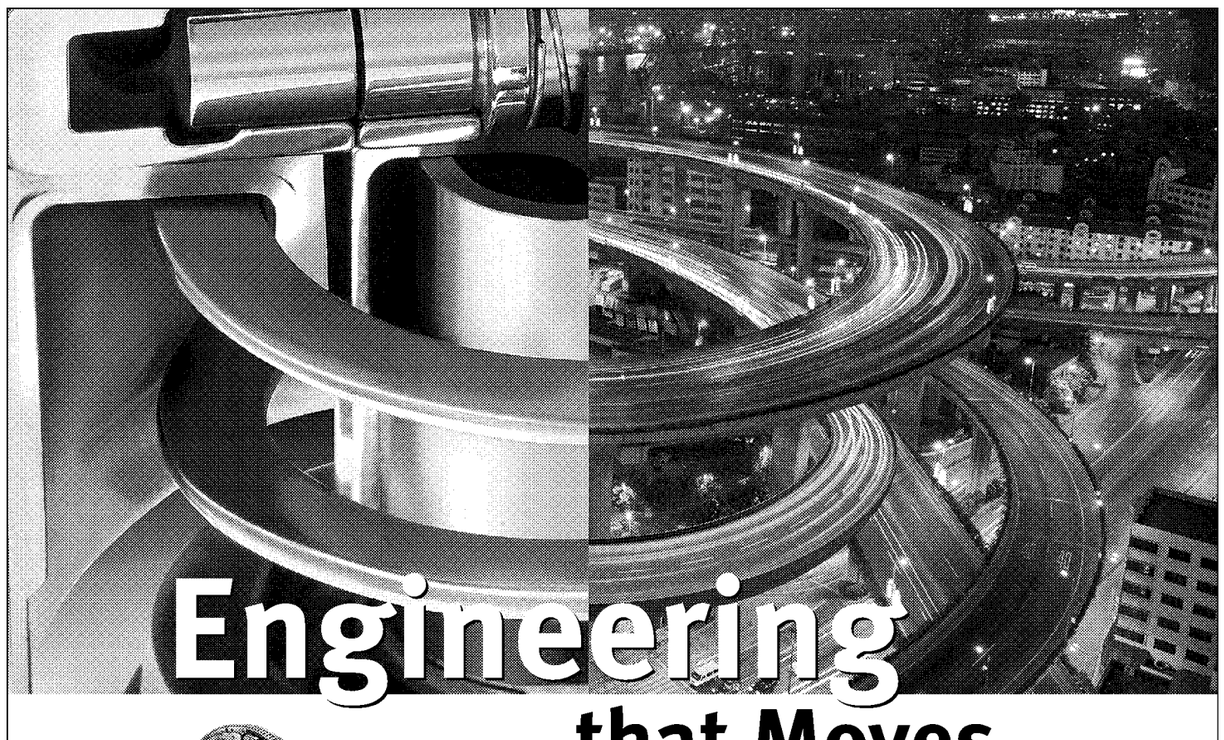
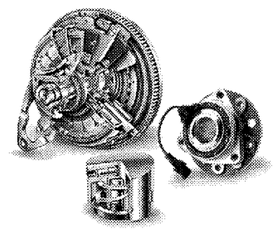




燃料消費と排出ガスを減らし、走行ダイナミクスを向上させる。自動車産業界のエンジニアリングパートナーとして重ねてきた数々の経験のなかで、シェフラーは、一見相反するこの業界のトレンドを、うまく調和させて実現する方法を見出してきました。
シェフラーは、INA/FAG/LuKのブランド名で、エンジン、トランスミッション、シャーシ用の精密部品およびシステムを開発し生産しています。シェフラーの製品群には、各種バルブトレインやカムシャフト位相可変システム、ダブルクラッチトランスミッションやハイブリッドドライブ用部品のほか、摩擦を抑えたホイールベアリングなどがあります。動きを支えるエンジニアリング――明日を生きる、ダイナミックで価値ある世界をつくるために。

シェフラージャパン株式会社
横浜市神奈川区新浦島町一丁目1番地32
ニューステージ横浜
Tel: 045-274-8213(代)

ブース番号E3203

www.schaeffler-group.com・www.schaeffler.co.jp

SCHAEFFLER　LuK　INA　FAG

いよいよ開幕！
東京モーターショー

「第42回東京モーターショー」がいよいよ開幕する。会場は今回、24年ぶりに東京へ戻った。ショーテーマは「世界はクルマで変えられる（Mobility can change the world）」。世界12カ国・1地域から176の出品者が参加し、最新テクノロジーを駆使したクルマや関連技術、サービスを展示する。主催は日本自動車工業会（自工会）。一般公開日は12月3日から11日まで。会場は東京・有明の東京ビッグサイト。入場料は大人1500円、高校生500円、中学生以下は無料。

24年ぶり東京へ

一般公開はあすから11日まで

ワールドプレミア52台　ジャパンプレミア82台
初登場車両に期待高まる

一般公開日初日の3日9時から江東区有明の青海にある夢の大橋でオープニングイベント「オープニングパレード」が実施される。日産GT－R1号車、レクサスLFAニュルブルクリンクパッケージ、ホンダゴールドウイングなど、記念車やヒストリックカー約50台が、自工会会員メーカーのトップが運転する各メーカーの先頭車に続いてパレードする。

このパレードのあと、11時からは東京ビッグサイト西ホールアトリウム内ステージで自工会正副会長（日産、トヨタ、ホンダ、三菱、マツダ）が参加するトークセッションが行われる。

一方、今回の東京モーターショーに展示される車両は国内外メーカーの合計で398台。そのうち来場者が期待する世界初公開のワールドプレミア車両は52台、国内初公開のジャパンプレミア車両は82台。

東京モーターショーで注目されるのはこうした最新の車両やコンセプトカーの展示だ。しかし、自動車技術、部品やサービスの展示にも注目して欲しい。なぜなら、そこにはこれからクルマがどう進化していくのか、そしてクルマが社会とどうかかわって行くのか、という「未来」がみえてくるからである。

ボディーの軽量化やデザインの見直しによる空力効果の向上、電子機器による制御での燃焼効率向上など、低燃費化、二酸化炭素（CO_2）の排出量削減を目指し、環境負荷を低減するための取り組みが自動車メーカーによって進められている。しかし、今日の環境にやさしいクルマの実現は完成車メーカーのみならず、部品メーカーによる技術開発の貢献も大きい。

今回の東京モーターショーでも環境負荷の低減を目指した自動車部品やシステムが多く出品される。

NTNのテーマは「先進技術で未来をひらく。－地球に優しいNTN－」。次世代電気自動車（EV）用システム商品の展示に加え、軽量・高効率化に貢献する商品を数多く展示する。中でも同社のEVシステムを搭載した二人乗り4輪電動コミュニューターのコンセプトモデル「キューモ」のデモ走行に注目したい。

テーマを「ガソリンと電気が共存する世界」、モットーを「効率的な未来型モビリティ」にブースを展開するのはシェフラージャパン。同社は内燃機関とハイブリッドソリューションを組み込んだ効率的な駆動系から電動モビリティー向け製品にいたるまで、広範な製品群を紹介する。

NSKのテーマは「未知を行く、道を作る。これまでも、これからも。」。次世代電気自動車（EV）用システム商品の展示に加え、軽量・高速回転」「メカトロ化」という四つの自動車製品基礎技術で、同社が考える環境への対応と貢献を解説する。燃費改善技術を紹介する近未来ゾーン、電動化への対応技術を紹介する未来ゾーンを展開する。

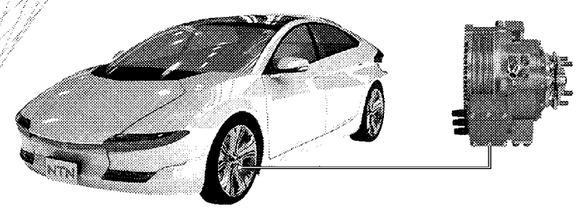
併催イベント
SMART MOBILITY CITY 2011

東京モーターショーの併催イベントとして開催されるのが、「SMART MOBILITY CITY 2011」。〝最先端の情報・環境・エネルギー技術が実現する人とクルマと都市の未来〟をテーマにモータショー展示会場内の西4ホールと屋上展示場で展開される。主催はSMART MOBILITY CITY 2011実行委員会と自工会。入場は無料（東京モーターショーの入場券が必要）。

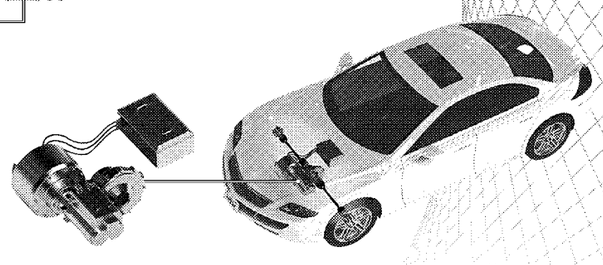
今年3月11日に発生した東日本大震災を契機に、地球環境の保全や資源・エネルギーへの関心はこれまで以上に高まっている。この併催イベントは太陽光発電や地域のエネルギーコントロール、低炭素社会を実現するスマートコミュニティ分野で、クルマがどのように変化し、貢献していくのか、日本の「次世代自動車戦略」などを紹介し、「次世代自動車とそれを取り巻く社会システム」を提示するというもの。

技術の体系や関連性を分かりやすくガイドする基礎技術ガイドや次世代自動車の展示に加え、人とクルマと都市の未来を語るテーマ映像から構成されるコア展示、次世代自動車の同乗試乗や自動走行のデモンストレーション、シンポジウムなどで構成される。

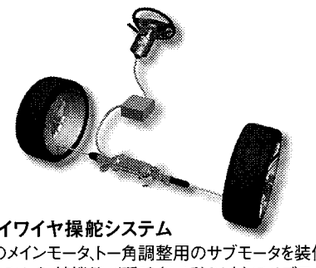
ゼロエミッション時代を先駆ける
NTNのEVシステム



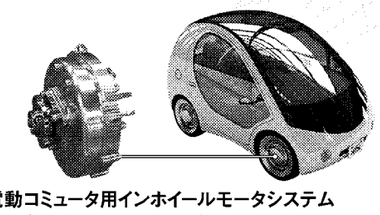
●インホイールモータシステム
サイクロイド減速機とハブベアリング、モータ、各種センサを搭載した小型・軽量なインホイールモータユニットです。センサ情報に連動した制御システム（インバータ含む）を組み入れることで安全性を第一に配慮した確実で安定した走行を実現します。



●ワンモータEV駆動システム
独自の自動2段切換機構により、小型の駆動モータでもスムーズに加速し、かつ高速走行が可能です。また、走行条件に応じて最適なギヤを選択することにより、システム効率の向上が可能となります。



●ステアバイワイヤ操舵システム
転舵操作用のメインモータ、トー角調整用のサブモータを装備し、メインモータ故障時には、転舵機能が瞬時（0.1秒以内）にサブモータへ切り替わり、安全性を確保します。またハンドル内に反力アクチュエータを内蔵し、パワーステアリングと同じ感覚で操作できます。



●電動コミュータ用インホイールモータシステム
薄型ハブベアリングを採用した小型インホイールモータ。ホイール内に納まる設計により、コンパクトな電動コミュータでも車内スペースの有効利用とデザインの設計自由度が向上します。

Essential Elements for Driving

The 42nd TOKYO MOTOR SHOW 2011
12.3-11 東京ビッグサイト
第42回 東京モーターショーに出展します。 NTNブース:西1ホール W1401

NTN®
ベアリングのことなら NTN 検索

未知を行く、道を作る。これまでも、これからも。

NSKは、第42回東京モーターショー2011に出展いたします。
会場：東京ビッグサイト（東京国際展示場）西1ホール No.W1502
モーターショープレスリリースをご用意しています。詳細はホームページにて。

MOTION & CONTROL™
NSK
日本精工株式会社
www.nsk.com